

九州海事広報協会会報

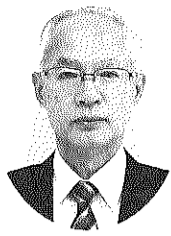
No.190

発行所
(公社)九州海事広報協会
北九州市若松区本町1-13-20
洞海湾労働者福祉センター1階
電話 093-701-7897
FAX 093-701-7898
https://kaijikohokyo-kyushu.org/



新年を迎えて

公益社団法人九州海事広報協会
会長 小笠原 朗



令和3年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は、会員の皆様方並びに九州運輸局、関係の皆様には格別のご理解とご支援ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと新型コロナウイルスの感染拡大や7月豪雨で甚大な被害に見舞われ、多難な年となりました。被災地の日でも早い復旧を心からお祈りします。

本年が新型コロナウイルスの終息と災害のない平和で明るい年でありますよう願っております。

昨年の活動につきまして「海の日」及び「海の月間」行事などが規模を縮小しての開催や中止となりました。このような中、中学生海の絵画コンクールには数々の作品応募があり、門司港、佐世保に続き、鹿児島でも作品展を開催することができました。海事産業施設の見学会につきましても感染防止措置を行い、海事関係機関、産業界のご協力ご支援をいただき実施しました。

また、海・船に関するパネル展につきましてもコロナ対策を行い、管内の6

ポートレース場で開催し、海事知識の普及を図るとともに地域の皆さんにポートルース事業への理解を深めていただきました。

本年は、新しい学習指導要領により作成された教科書の使用が中学校で始まります。児童生徒、先生方への見学会のほかオンラインでの出前講習にも取り組んでまいります。「海の日」及び「海の月間」を中心に、年間を通じて幅広い海事広報活動を展開してまいりますので、関係の皆様並びに会員の皆様のお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年を迎え海事産業の益々のご発展と皆様のご健康ご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶と致します。

年頭の辞

九州運輸局長

岩月 理浩



新春を迎え、謹んで御挨拶を申し上げます。

昨年の「令和2年7月豪雨」により被災された皆様、心よりお見舞いを申し上げます。熊本地震や九州北部豪雨からの復旧・復興が着実に進む中での災害発生となりましたが、全ての被災地が一日でも早く日常を取り戻せるよう、九州運輸局の職員一同、全力で取

り組んでまいります。また、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大により、九州の経済にも大きな影響が及んでおります。特に、運輸業・観光業については、感染拡大に伴う外出自粛、人々の生活様式の変化等により利用者が減少し、経営に多大な影響を及ぼしております。これまで九州運輸局として、関係団体を通じて雇用調整助成金や持続化給付金を始めとする各種支援制度の活用を促すとともに、各県・市町村に対して地方創生臨時交付金の活用等により関係事業者への支援が行き届くよう、強く働きかけてまいりました。さらに、各事業者の最新の状況について調査することで、九州の関係業界の状況を正しく把握して本省における検討に役立てるとともに、その窮状や事業者の対策状況を積極的に公表することにより、世論の正しい理解に結び付けることを目指してまいりました。

今後引き続き、関係事業者の経営状況や関係業界の動向に注視するとともに、各事業者の皆様が経営の継続に向けて必要となる言、感染拡大防止対策への補助等を行ってまいります。

さて、年頭に当たり、九州の運輸・観光行政に関する抱負を述べさせていただきます。

九州における観光の発展を推進してまいります。新型コロナウイルス感染症の拡大は、インバウンドの増加等により好調であった我が国の観光の状況を一

変させています。国土交通省としましては、社会経済活動と感染拡大防止の両立を図るため、「新たな旅のスタイル」を普及・定着させることを目的とする「Go Toトラベル事業」に取り組んでまいりました。本年も引き続き、観光施設や宿泊施設での感染対策の強化など、ウィズ・コロナ時代における新たな対応を継続することが重要と考えています。

また、造船・船用工業については、船舶の開発・建造から運航までの全工程で情報技術等の積極的な活用を目指す「海事生産性革命(Shipping)」と海事人材の確保・育成を両輪として、造船業の生産性向上を推進してまいります。特に後者に關しては、特定技能制度の活用により外国人材の受け入れが進んでいますが、併せて、各地域の教育機関と連携して人材育成に取り組む、造船・船用工業の円滑な人材確保に向け、尽力してまいります。

最後に、各交通モードを支える基盤的な業務については、次のとおり取り組んでいます。

交通事業者の事故防止については、より一層の安全対策を講じていたいただくようお願いいたします。

また、海上交通の安全確保については、関係法令等の動向も踏まえ、船舶検査、船員の航海資格・乗組体制の審査、運航管理監督等を的確に実施し、事故の防止に取り組むとともに、小型船の安全指導や各種講習会の実施を通じて事故防止に関する啓発活動を行ってまいります。

外国船舶については、ポर्टステイトコントロール(寄港国による監督)を関係各国と連携して適切に実施し、構造・設備、乗組員の配乗等が国際条約の基準を満たしていない船舶の排除に努めてまいります。

以上のように、九州運輸局では「運輸と観光で九州の元気を創ります」をキャッチフレーズに、職員一丸となり、社会・経済情勢の動向に対応した課題、ニーズ等に対して的確に取り組んでまいります。

結びに、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い鎮静化、そして、九州の発展と皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、新年の御挨拶といたします。

(海事分野について抜粋させていただきます) 全文は、九州海事広報協会ホームページに掲載しておりますのでご一読ください。文責・九州海事広報協会



船台前に集合 (株)ニシエフ

船との出会い 講話

海事施設見学会

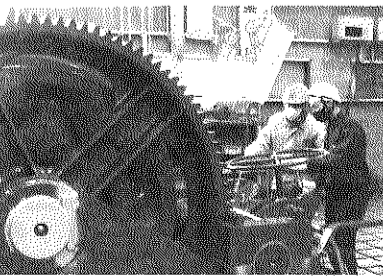
☆ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



オンライン講習

海洋キャリア教育セミナー「海の仕事へのパスポート」11月12日(木)佐伯市立本匠中学校の1・3年生21人は、出前講習で海で働く人々や海を守る仕事について、東京とオンラインで結んだ講習では船長の仕事、海洋研究での深海調査などクイズを交えた双方向の講習に「海の仕事」を興味深く聞いていました。

講師の皆さん
九州運輸局大分運輸支局 久次長
佐伯海上保安署 田中署長
日本船長協会 田中理事長
長田常務理事(商船三井船長) JAMSTEC しんかい6500 田代初代船長
主催(公財)日本海事広報協会



揚錨機の運転体験 (株)瀬戸崎鐵工所

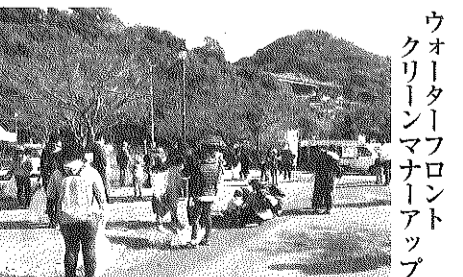
▼12月8日(火)、11日(金) 下関市 山口県立下関工科高等学校 1年生 68人、教諭8人 (株)ニシエフ (株)瀬戸崎鐵工所 主催九州運輸局



みんな参加してます

11月1日(日)北九州市内の小学生と保護者52名はノーフォーク広場から旧門司税関まで海岸沿いの遊歩道などを清掃しました。また、レトロ地区では訪れた皆さんに啓発グッズを配り「港を美しくしましょう」とマナーアップを呼びかけました。

主催・北九州海の日協賛会



ノーフォーク広場から清掃

ウォーターフロント クリーンマナーアップ作戦